

オペラ「小町百年の恋」 復活公演に470人

8月7日、中央公民館大ホールで、市民協働まちづくり記念事業オペラ「小町百年の恋」を上演しました。

これは、3月20日に石岡市民会館で、石岡市市民協働まちづくり推進大会第2部の記念事業として実施予定の公演が、3月11日に発生した東日本大震災の影響で、一旦中止となっていたものです。

しかし、この公演を楽しみにしていた市民や、村人役の人たち、子役の小中学生などの強い要望により、復活公演として実施することになりました。復活公演は、石岡市民会館が震災で使用停止中のため、会場を中央公民館に移しての上演となりました。

オペラ「小町百年の恋」は、茨城県民オペラ協会が第23回国民文化祭・いばらき2008で上演した創作オペラです。全3幕・ハイライト版として、石岡市にゆかりのある小野小町と常

陸国府の物語を題材にしたオペラで、作曲家である平井秀明氏の台本・指揮により、プロのオペラ歌手、アンサンブル17人と、市民や協力団体などの57人が共演。多数のスタッフとボランティアの協力により、上演することができました。

公演には、市内はもとより県外から訪れたおよそ470人が、オペラを鑑賞しました。また、原発事故で福島県から避難してきた8人も招待しました。

今回の公演は、入場整理券の配布予定枚数を上回る申し込みがあったため、正午に行う通し稽古から観覧を実施。182人が通し稽古から観覧しました。

公演終了後には、会場から出演者に大きな拍手が送られ、オペラは大盛況の中、幕を閉じました。

当日、会場では東日本大震災の募金活動を実施し、観客や農産物の売り上げの一部など合計で12万1750円の義援金が集まりました。



練習風景（東地区公民館）



開演を待つ来場者



出演中の市民



小野小町と深草少将



プロ歌手と市民の共演（閻魔庁の場面）



カーテンコール